

リベラルアーツ：三つの魅力

皆さん、こんばんは！リン・レイチェルと申します。今日はリベラルアーツ Liberal Arts について、お話ししたいと思います。小松サマースクールのテーマはリベラルアーツということですね。

皆さんは Liberal Arts という言葉を聞いたことがありますか？ Liberal Arts って一体何でしょうか？ウェブで簡単に探すと、色々な定義がありますね。例えば、「リベラル・アーツ」という表現の原義は「人を自由にする学問」で、それを学ぶことで一般教養が身につくものことであり、こうした考え方の定義としての起源は古代ギリシアにまでさかのぼる。」とか… 内容は技芸（実践的な知識）の人文科学、自然科学、社会科学、等々を含めています。

でも、本当はどういう意味でしょうか？生活にどのような影響があるのでしょうか？実は、Liberal Arts のデフィニション（定義）は一つではありません。自分でまだ体験していない場合は、ちょっと分かりづらいかもしれません。なので、先程の「本当はどういう意味なのか」や「生活への影響はどうなのか」などの質問を考えて、今日は自分の経験や視点をシェアしたいと思います。

まずは自己紹介から始めます。私はシンガポール人ですが、シンガポールで生まれて、6歳から高校時代までずっと中国の上海で育っていました。後に、アメリカの DUKE と HARVARD 大学から奨学金をもらって、そこで勉強しました。専門は経済学と東アジア研究でした。そして、色々な興味があるので、2013年のミス・シンガポールの一人になりました。そして、今は半年ぐらい日本の会社で仕事をしています。日本に来る前に、韓国のソウルで働いていました。

私にとって、リベラルアーツの3つの大切なポイントは、第一は機会が作れること、第二はインターナショナルの立場で物を考えられる、第三は CRITICAL THINKING の良い勉強方法です。

では、もう少し具体的に3つのポイントについてお話ししたいと思います。まずは第一のチャンスについて、リベラルアーツは機会の扉です。私は高校生の時、リベラルアーツについて何も知らなかったです。最初の考えは、イギリスやシンガポールの大学に行って、法律学を勉強して、弁護士のキャリアを立ちあげたかったです。実は、あの時は弁護士の仕事にあまり興味がありませんでしたが、選ぶ理由は他の方法を知らなかったからです。でも、リベ

リベラルアーツ教育のおかげで、色々な専門やキャリアの可能性について知りました。だから、韓国の公共政策やポリシーとか、それに日本のファイナンスの分野についてたくさんを知ることができました。リベラルアーツは学生に計画外の機会を手に入れる良い方法だと思います。

次は、第二のインターナショナルの立場で物を考えられるということについては、リベラルアーツはインターナショナルイズムの原点の一つです。リベラルアーツのような教育は、グローバル人材をつくるには必要だと思います。私は今まで色々な国に住んだことがあります。どこにいても、いつも留学生や外国人として住んでいます。自分のアイデンティティは一つの国ではないということを強く意識しています。これは本当のインターナショナルイズムやグローバリズムの影響かもしれません。アメリカの大学には世界各国から留学生がたくさんいるので、必然的にインターナショナルコミュニティが形成されています。学生たちは、リベラルアーツ教育を通して自身のアイデンティティやコミュニティを確立していけると思います。

最後の CRITICAL THINKING について説明したいと思います。リベラルアーツは批判的思考 (CRITICAL THINKING) やコミュニケーションの一番いい勉強方法だと思います。大学で色々な学問が勉強できるので、歴史や文学、芸術などを体系的に理解していれば、経済や政治のニュースから真相を読み解けるし、芸術もより深く味わえるようになるかもしれません。仕事にもあらゆる局面でプラスになると思います。また、自分たちの社会、自分たちの文化とは何かと、あらためて考えるようになると思います。この経験があるために、世界のどこにいても、プレゼンテーションができ、多様な人々と良いコミュニケーションをすることができるようになります。要するに、リベラルアーツ教育を通して世界の見方が変わります。

では、私にとって、リベラルアーツというのは今までお話したような3つの魅力があると思います。皆さんは自分の定義を探さないと行けないかもしれません。今回のサマースクールから、リベラルアーツについてよく考えて、やってみてください。